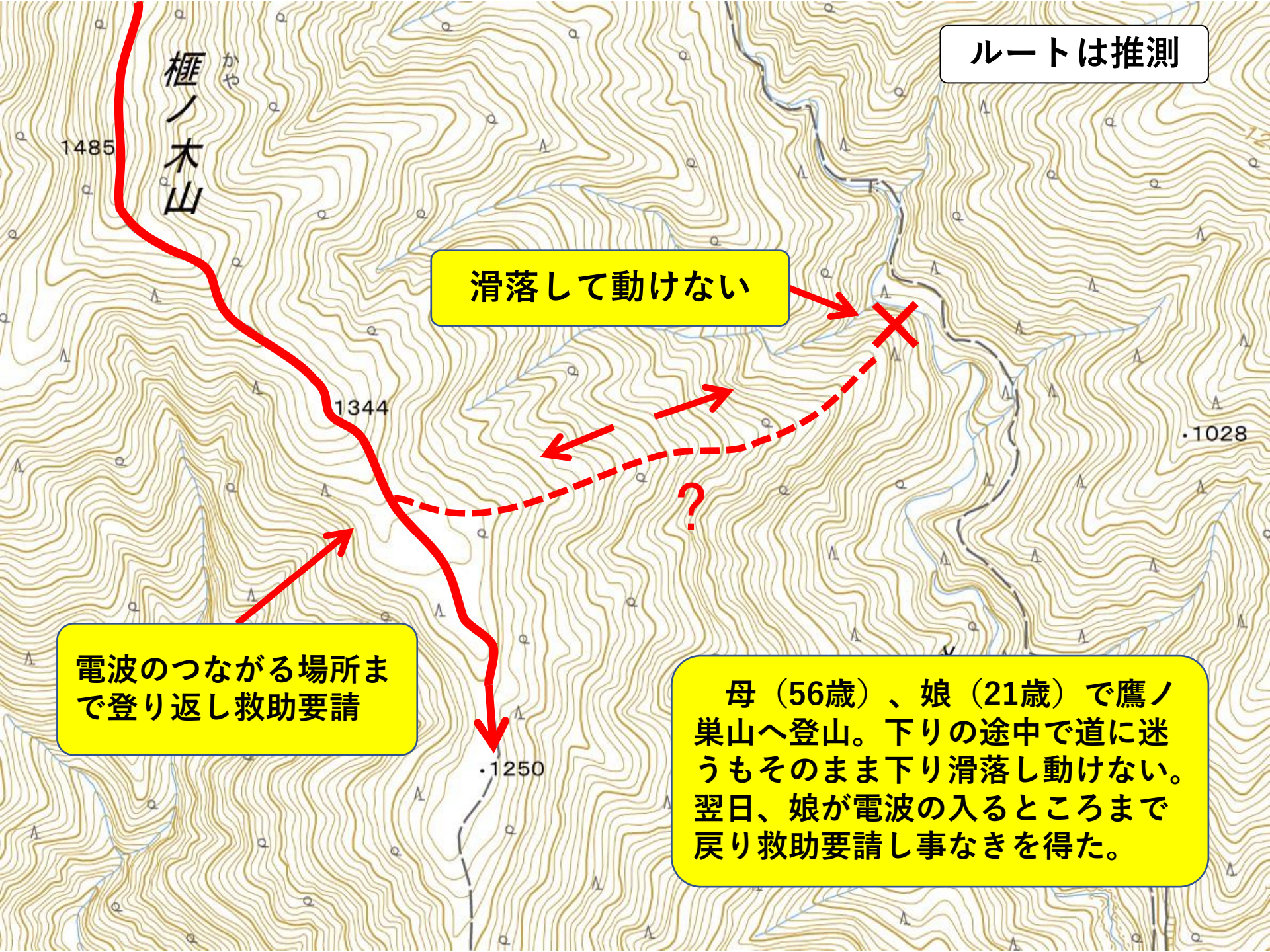


ルートは推測

滑落して動けない

電波のつながる場所まで
で登り返し救助要請

母（56歳）、娘（21歳）で鷹ノ
巣山へ登山。下りの途中で道に迷
うもそのまま下り滑落し動けない。
翌日、娘が電波の入るところまで
戻り救助要請し事なきを得た。



登頂後12時15分に下山開始し、榧ノ木尾根を倉戸山方面へ向かった。14時ごろにはルートが誤っているようだと気づいたが、そのまま下り続け、尾根末端近くで急斜面を沢に約10m滑落して胸を負傷した。日が暮れ、携帯電話はつながらず、二人は一夜を過ごした。

翌朝5時、救助を求めるために娘一人で尾根を登り返し、携帯が通じるところまで来て8時に事故を通報した。10時34分、救助隊が現地に到着して合流。11時33分、消防ヘリが二人を吊り上げ収容し病院へ搬送した。（HP参照）

倉戸山への榧ノ木尾根は南下しないといけませんが、迷った尾根は東方向である。更に倉戸山までの尾根は主尾根なので急に下るのはルートが誤っていると気づいている。道迷いの不思議は、ここからである。間違っていると感じていてもそのまま下山を続けてしまう。しかも、急な斜面で滑落し動けなくなるという典型的なパターンである。

「ルートが違っていても、なんとかなる！」と想着てしまう。道迷いの初期段階である。「あれっ？」と思ったときは、「遭難！」の2文字を頭に浮かべ、臆病になって立ち止まってほしい。

「立ち止まって！落ち着いて！次の行動を考えよう！」